



九条の会. ひがしなだ ニュース

第56号

2014年9月

事務局 中村陽一 Tel&Fax 811-4562 E-mail youichi-nakamura@kcc.zaq.ne.jp

私のひとこと

同じ道を歩まないよう・・・

私は戦後生まれの戦争を知らない世代。しかし、20代から神戸労演（現、神戸演劇鑑賞会）の会員だったので、芝居を通して学校では教わらない戦前、戦後の歴史を知りました。20代の頃は、歴史の事実を知ることは重く、でも一方で「こんな時代は二度と来ない」と遠い話のように受け止めていました。それが、一昨年末、安倍政権が発足し歴史の歯車が逆戻りし始めたような、そして7月1日の「集団的自衛権行使容認」の閣議決定。今まで遠い話が、急に背後に迫ってきた思いがしました。

戦後69年、戦争体験者が亡くなり、国民の大半が戦争の悲惨さを知らない世代。安倍首相もその一人。8月は、6日ヒロシマ、9日ナガサキの原爆投下の日、15日は戦争終結の日と忘れてはならない月ですが、その出来事さえ知らない世代が増えてきている事実。

「九条の会」の呼びかけ人のひとり、(故) 井上ひさしさんは、「この憲法は、戦争で亡くなった人の犠牲の上にできた憲法、いま生きている人が勝手に変えてはいけない」と語っていたそうです。その井上ひさしさんの書いた『父と暮らせば』が来年、神戸演劇鑑賞会で上演されます。原爆投下から3年後の広島、生き残ったことを負い目に思う娘を励ます父。父親と娘の二人芝居ですが、1997年にも神戸で上演されました。18年経って観る芝居は、遠い世界の話ではないような気がします。

戦後に生まれ、平和な時代を生きた者として「憲法九条」を守り続けるために、声をあげていきたいと思っています。悲惨な過去と同じ道を歩まないように。

(九条の会. ひがしなだ 世話人 田中千津子)



大盛況の辛さん8月30日講演

「平和と人権」で鼎談も

辛淑玉^{シン スゴ}さんの講演は“生い立ちネタ”から始まった。梁石日^{ヤン ソギル}の小説「血と骨」の世界そのままの家庭環境。

父親に『災いを招く』と叱られてきた“達者な口”でカタギの仕事をしていると、まず会場の笑いを取ってから、<今なお日本に根づく在日差別の問題の源は先の大戦の戦後処理（戦後棄民＝朝鮮人）にある>と指摘。関東大震災時の朝鮮人虐殺が在日の人々にもたらした心理的影響について述べた後、アウシュビッツ強制収容所で撮影した写真を紹介しつつ、



ナチスドイツが殺した順番は＜捕虜、政治犯、性的少数者、精神疾患患者、障害者、ロマ（欧州流浪民）、ユダヤ人＞であり、谷垣法相の死刑執行がらみの『辞めるまで職務全うする』という発言を引き合いに＜役割とルールが人を殺すことを可能にする＞と喝破したうえで、＜アンネ・フランクは戦争ではなく、差別で殺された＞のだから＜差別をなくすことで戦争をなくす＞という発想の重要性を示唆した。（以上、前半超要約）。

後半は鼎談。辛さんのリードで関西カウンター行動先駆者の泥憲和さん（元自衛官・自称普通のおじさん）と、レイシストの在特会・その他を提訴したフリーライターのリン信恵さん（自称在日コリアン 2.5 世&中途半端なマイノリティ）の三者が軽やかに談義。みなサシ（一対一）で喧嘩できる気概の持ち主。

辛さんは「この二人から学びたい」と語ったが、大いに同感しました。（以上、超要約ご報告）。

定員 200 名の大会議室が満杯の盛況でした。
向かって左から、李信恵さん、泥憲和さん、
辛淑玉さん

※ 後半の鼎談、USTREAM

<http://www.ustream.tv/recorded/>



原水爆禁止世界大会 2014・広島

核兵器廃絶への熱い思いを共有

柳 富子

広島で、8月4～6日に開催された原水爆禁止2014年世界大会に、参加してきました。国連軍縮問題担当上級代表ら18カ国75名の海外代表も参加。潘基文国連事務総長は、「被爆者の尽力のおかげで、核兵器使用のもたらす壊滅的な人道的影響が理解された。核兵器をなくすことは、世界の人々すべての利益となるものであり、将来、核兵器が使用されない唯一の保証」と、メッセージを寄せました。

来年の核不拡散条約（NPT）再検討会議を、「核兵器廃絶への決定的な転機にするため、草の根から広大な世論と運動をつくろう」と呼びかける「広島決議」も採択されました。

閉会総会では、7,000人の参加者が立ち上がり、「ノー・ニュークス！」（核兵器をなくそう）「テイク・アクション！」（行動しよう）と唱和して、国際連帯を深めました。大雨洪水警報も出る中での大会でしたが、核兵器廃絶への熱い思いと強い気持ちを共有しました。

また、青年の参加も多く、継承されていることを確信できた大会でした。

（芦屋市在住）



動く分科会は岩国基地調査に参加



平和随想

身近な人から気持ちをつないで

弁護士 内海陽子

父は、昭和16年(1941年)に生まれ、その年、太平洋戦争が始まりました。戦中、サツマイモのツルばかり食べたそうです。昭和20年に終戦。母は、昭和24年に生まれました。子どもの頃、とんでもなく貧しい生活で、町に進駐軍がいたことを覚えていると言います。亡くなった父方の祖父は教員だったため、児童とともに疎開し、母方の祖父は戦争に行ったと聞いています。

私は昭和47年に生まれました。戦争が終わってから30年たらず、日本国憲法があるから日本に戦争はない、と信じて育ちました。

平成生まれの子どもがいます。ひめゆりの塔資料館を訪れた時には、怖くて夜に泣いてしまいました。原爆のテレビ番組も怖かったと言います。でも戦争の怖さを知ってほしい、平和の大切さを知るために。

今年、太平洋戦争が終わってから69年。

私だけでなく誰の家族であっても、誰かはきっと戦争の記憶があり、誰かは戦争を知らなくても戦争を恐れ、平和を求める気持ちがあるはずです。

戦争を経験し、悲しい思いをした人やその子どもたちが生きるこの国が、こんなにも早く再び戦争ができる国に突き進むなんて、おかしい。これからも戦争をしない国であり続けられるために、身近な人から気持ちをつないで、平和への思いを広げていきたいと思っています。

(東灘区在住)

劇団あすわか

13日に宝塚で新作上演

明日の自由を守る若手弁護士の会(略称あすわか)の「劇団あすわか」が9月13日(土)午後2時から、宝塚西公民館ホールで新作「せんそうがおきるまで」を上演します。脚本は神戸合同法律事務所の吉田維一弁護士。

秘密保護法の廃止を求める市民の会・宝塚が主催し、演劇の後、弁護士も交えて、自由な意見交換を行ないます。

また、集会後には、阪急「逆瀬川」駅まで、市民アピールパレードを予定しています。

九条の会かわにし9周年記念講演会

日時：9月21日(日)午後1時半～4時

場所：川西市中央公民館大集会室

講演：「変貌する国・日本～平穏に生きる

権利と戦争する国づくり」

講師：羽柴修・兵庫県弁護士9条の会事務局長

参加協力費：500円(高校生以下無料)

問い合わせ：080・3785・9069(竹村)

岩井直臣さん(松本理花さん実父)を偲ぶ会

日時：9月14日(日)午後2時～4時(予定)

場所：神戸市勤労会館・多目的ホール(2階)

会費：3,000円

問い合わせ：078・341・2818(兵庫県原水協)

旧教職員も含め、多彩な人材 憲法運動の拠点として大きな貢献

神戸大9条の会（神戸大学教職員・旧教職員9条の会）は、2005年4月から準備を開始し、2006年1月27日に結成されました。

呼びかけ人には、52人の錚々たる面々が名前を連ね、今日まで、大学所在地の灘区だけでなく、兵庫県、関西エリアでの憲法運動の拠点となって、幅広くリーダーシップを発揮してきました。

一例をあげれば、地元の灘区九条の会の事務局長には、現役の理工系教授が選ばれており、結果として共催イベントも多く、双方に大きな相乗効果をもたらしています。

学習会の講師は、ほとんど“自前”で賄えるのが強み。講師派遣の要請にも積極的に応えています。

複数代表制をとり、事務局会議は毎月1回のペースで開催。運営方針は、①会報「白バラ通信」を年4回程度発行②年2回程度の講演会など催し開催③憲法記念集会などへの参加よびかけ④灘区九条の会など他団体との協力⑤会員名簿・通信網の整備と会員の拡大——などを、第2回総会で決めています。

事務局長は現在も、憲法が専門の和田進名誉教授。

「白バラ通信」は、ドイツの大学で、ナチスに抵抗して闘った非暴力のレジスタンス運動にちなんだもので、全教職員を視野に入れ、会員以外にも広く配布しています。内容は、催し物の案内とその結果報告、憲法情勢、代表や事務局員の随想など多彩。

ノーベル賞を受賞した益川敏英氏を招いた「トップクォータの発見—学問の喜びと科学者の社会的責任」の講演会には500人以上が参加しました。南京大虐殺など加害の側面を取り上げたテーマやTPP問題など、時事問題にも機敏に反応して講演会を開催しています。

今年5月27日には、安井三吉名誉教授による「この100年来の日中関係～“大而強”の中国とどう向き合うか」と題した講演が時節柄、大きな関心呼び、阪急「六甲」駅近くの神戸学生青年センターは、満員の盛況となりました。中国問題学習会の第2弾は11月20日（木）午後6時半から、同じ神戸学生青年センターで予定。演題は「民族解放・国民主権を超えて～東アジアにおける日中両国の『帝国』化と平和の実現」で、講師は学内から、浅野慎一・人間発達環境学研究科教授がつとめ、もちろん一般公開されます。



日中関係への関心は強い

10月6日に県下いっせい宣伝

憲法5団体が主要44ターミナルで

九条の心ネットワーク、憲法改悪阻止兵庫県共同センターなど兵庫県の憲法5団体が、10月6日午後6時から、集団的自衛権行使容認に関する閣議決定に反対し、安倍内閣の暴走を阻止する統一宣伝行動を行なうことになりました。

兵庫県下の主要ターミナル44駅などで、一斉に行うことが、大きな特徴。東灘区ではJR「住吉」駅、阪急「岡本」駅、阪神「御影」駅の3カ所が必須とされています。

具体化を急ぎ、多数の参加で成功させましょう。

「標的の村」上映会のお誘い

久家登志子

いま沖縄では、「普天間基地の移転」に名をかりた、辺野古での巨大な新基地建設の強行が、大問題となっています。

涙が止まらない…。私たちの知らない沖縄。全国ニュースから黙殺されたドキュメント映画。

正当な抗議行動にたいして、子供までも「通行妨害」として訴える「スラップ訴訟」の非人間性。権力の非道な手口とは対照的に、明るく、元気に頑張る住民たちの、したたかな日常生活も、しっかりと描かれています。

第87回キネマ旬報 文化映画部門第1位になった、三上智恵さんの監督作品です。(詳細は添付チラシ参照)

三上さん自身のトークも出色です。

皆さん、友人・知人・家族連れなど、誘いあわせて、参加しましょう。

日時 9月27日(土)

場所 上宮川文化センター 3階ホール(芦屋市上宮川町10番5号)

上映1回目 13:30~ **2回目** 16:30~ **上映時間** 91分

上映1回目と2回目の間に、三上監督のお話 15:10 から1時間あります。

(東灘区南魚崎在住)



⇩1

SLAPP 裁判

国策に反対する住民を国が訴える。力のある団体が声を上げた個人を訴える弾圧・恫喝目的の裁判をアメリカではSLAPP (Strategic Lawsuit Against Public Participation) 裁判と呼び、多くの州で禁じられている。

⇩2

ベトナム村

1960年代、ベトナム戦を想定して沖縄の演習場内に造られた村。農村に潜むゲリラ兵士を見つけ出して確保する襲撃訓練が行われていた。そこで高江の住民がたびたび南ベトナム人の役をさせられていた。



三上知恵さん